



子どもの育ちと大人の関わり

先月の「ひのでアート展」はコロナ禍の中で開催することになり心配もありましたが、保護者の皆様のご協力のおかげで無事に終えることができました。その後、体調を崩す方もなくほっとしているところです。今までに例のない3部制にしたことで、同じ時間に人が押し寄せることもなく、会場でゆったりと遊ぶことができたり、乳児園でもワークショップにしたことで、他の保護者の方や職員とも話をすることができたなど、やり方を変えてみたら、意外とよかった！と思えることがありました。今後の行事にも、みんなが楽しいこと、今だからできることをインフルエンザやコロナへの感染に注意しながら、工夫して繋げていきたいと思えます。

先日、0歳児クラスのひよこ組さんで、“ちょちちょちあわわ、かいぐりかいぐりとっとのめ”と、マスクをはずして手あそびをすると、(換気と距離はとっていたので安心してください。)その間、びっくりしたような表情でじっと見たり、口元を注視して、真似をするように口をもごもご動かしている赤ちゃんたちもいました。一回終わってもまだ、静かにじっと顔を見ているので、「もう一回やる?」と、聞きながら何回か繰り返しましたが、ずっと不思議な様子で見入っていました。赤ちゃんたちが春に入園した時は、すでにコロナ禍の中にあり、大人はみんなマスク姿だったので、そのままの印象でインプットされているのでしょうか。目元と全体の雰囲気、笑っているんだな...などの感情はある程度理解できますが、顔全体の動きは複雑です。特に、赤ちゃんの時には、食事の際、「あ〜ん。」「もぐもぐね。」「おいしいね。」「これは、にんじんだよ。」など、おいしい匂いや、言葉と物の関連性などを大人の表情や口の動きを見て学んでいます。また、絵本などを見るときも、子どもたちの視線や指さしの先にあるものを「これは、ぴよんぴよんうさぎさん。」などと言葉に置き換えたり、手振りなどを加えながら語りかけると、動きや口元をよく見えています。「あっぷっぷ」「え〜んえん」「プンブン」など、大人の表情やしぐさを見ながら、模倣することも楽し

むようになる時です。こうした0歳から2歳位までの乳児期の大人とのコミュニケーションの積み重ねは、言葉の獲得や情緒の安定において、その後の成長に重要な意味を持ちます。例年の保育よりも制限の多い中ですが、0、1歳児クラスでは、保育の場面に合わせて、表情、口の動きがはっきり見えるように、少しずつフェースシールドを使用することにしました。換気や取り扱いなどに注意して使用することはもちろんのこと、視線を合わせて表情豊かに語りかけ、これから生きていく子どもたちが、心豊かに育つよう関わっていきたく思います。お家の中では、マスクをしていないお父さん、お母さんの素敵な笑顔でたくさん話しかけてあげてくださいね。

さて、区役所に、園と保護者の方を結ぶ通信アプリ“キッズノート”の使用方法について、保護者の方から意見が寄せられていると報告を受けました。【緊急時には便利なものだとわかるが、我が子のクラスに関係ないこともたびたび送られてくる。添付ファイルは見づらいのでお知らせは紙媒体にしてほしい】という内容でした。子どもたちの日頃の様子をお伝えするドキュメンテーションは、各学年の成長の様子もお知らせしたいと思っておりましたが、確かに添付ファイルでは見づらいため、乳児園でも幼稚園でも掲示したり、見逃した方のために、クラスごとのファイルにも保存するようにしました。お時間のある時にいつでもご覧ください。月末のプリント類は、印刷して置いてあります。必要な方はご自由にお取りいただければと思います。“キッズノート”の配信を始めてから、他の学年の様子もよくわかり嬉しい、もっと流して教えてほしいと仰ってください方もおられますが、使用については、まだまだ模索中です。お知らせの配信をする際には、タイトルにクラス名をつけていますので、選択して見て頂ければと思います。

園長

ほかほかドキュメンテーション 11月



「なぜ、廃材で遊ぶの？」

造形家の戸川先生に「なぜ、廃材なんですか?」と、質問したことがあります。その時に戸川先生は、「雑草のようなものなんだよ」とおっしゃっていました。雑草は、子どもたちの身近にあり、摘み取って束ねたり、丸めたりやりたいように試行錯誤しながら使うことができます。今の子どもたちにとって繰り返し使える新聞紙や空き箱は、身近にあって、考えたり工夫したり、失敗してもまたやり直しができる貴重な学びの機会を与えてくるものだと思います。今回は、夢中になって遊んでいるときの子どもたちの学びについてほかほかしてみたいと思います。

ひよこ組さんは...

空き箱のカード落とし。入れたり出したりが大好きな子どもたちです。カードの向きを変えながら、そーっと入れていきます。



りす組さんは...

らいおん組さんの真似っこをして、ヨーグルトの容器を並べたり、中に新聞ボールを詰め込んだりしています。たくさん入れようと、右手に持った容器が傾かないようにしています。



らいおん組さんは...

お菓子の箱と箱を重ねて中に入れてみようとしていたり、小さい箱を並べてみようとしています。中に入れる箱を選び、入れるときには向きを変えたり、両手の力加減に気を付けながら大きさの概念がわかり始めています。



箱は繰り返し入れたり出したりしているうちに壊れてしまっていますが、子どもたちが何かに気付いたり、やってみようとしたことがうまくいったという満足感は、積み重ねとなり消えることはありません。これからも、なんだろうやってみようという、ワクワクとした気持ちが続くような環境を工夫し、子どもたちの感性を刺激し続けていきたいと思っています。 乳児園主任